

“朝”はもうすぐです！

会長 鈴木 精成

新年明けましておめでとうございます。

「コロナ禍」という言葉と付き合いながら、二年目の新しい年を迎えました。皆様ご家族お揃いのご健勝をお祈りいたしております。

この二年間、私たちが辿ってきた日々は大変難しい足取りでありました。

楽しい吟友との交流は儘ならぬものとなり、語り、詠う時が奪われてしまいました。私たちの一

番身近な吟楽の場である教場が開かない寂しさは、お互いがしみじみ感じたものでした。

こうした辛い月日を経て、今私たちはどうやら希望の光を見出そうとしています。まだまだ心配は尽きませんが「ウィズコロナ」での前進を図れそうです。迎えた新しい年と共に、さあ「前へ、前へ」です。

昨年私たち千代田の活動の締めくくりとして、十一月三十日に「昇伝審査会」をやり遂げることが出来ました。まさに二年越しであり、待ちに待った開催でした。一三〇名の受審会員の皆さんが新宿文化センターに集い、例年以上に昂まる喜びを表情に一杯にした一日でした。

横山精真宗家、家吉精雄幹事長、小林精昶府中支部長の三先生の懇切なる審査ご指導を頂きました。三先生には心から感謝申し上げます。

・条件の悪い中での練習の成果を存分に発揮した！

・久しぶりの吟友との再会だった！

・吟友のハツとさせられる吟詠「こんなに上手な人がいるんだ」！

・審査の先生のお褒めの言葉にゆるんだ表情！

「審査会」は次への飛躍のキッカケです。今年行われる予定の、令和四年の審査に向けて早速準備を始めましょう。

明けた令和四年、私たち千代田は左記のスロー

ガンを掲げて逞しく活動したいと思います。

“新たな飛躍へ！千代田の絆！”

コロナ禍を力強く乗り越え、二年越しの「三十五周年」を祝い、吟友の一層の絆を固めましょう。

昨年「コロナ禍」で延期した「千代田岳精会創立三十五周年」の記念大会を十月二十八日（金）

に江戸川区の「タワーホール船堀」で開催します。

私たちが先輩から引き継いでいる歴史をしっかりと受け止め、会員総参加の大会にすべく、萩原副会長を中心に実行委員会が練り上げ中です。具体的な内容が発表されますので、皆さんのご協力をお願いします。

右の大きな取組に加えて、今年次のようなことを中心に進めていくことにします。

（一）教場こそ、私たちの詩吟活動の原点です。

この機会に、メンバー総参加の教場造りに努めましょう。役割分担の広がりが必要です。

（二）新しい会員仲間、再出発の復帰仲間等、教場に「新しい風」を通しましょう。

（三）ズーム研修、ホームページ活用等、新たな研修に取り組みしましょう。

「真善美を追い求めるに強くあれ」

（宗家「十二月のことば」）

朝はもうすぐです！



岳精流日本吟院

ちよあ

第 68 号

令和 4 年 1 月
千代田岳精会弘報

令和四年岳精流指標

楽しみをなす

創立三十五周年記念

吟道大会

実行委員長 萩原 龍晴

新年明けましてお目出度うございます。

皆様におかれましては、恙なく新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、三十五周年記念吟道大会はコロナ禍で一年延期となりましたが、いよいよ今年は実行の年であります。千代田岳精会三十五年の歴史を重く受け止め、質素でコンパクトな会員のための大会とすべく、昨年からウェブでの準備委員会を立ち上げ、企画を鋭意推進中であります。

現在まで確定している項目は、

(一) 大会スローガン

“新たな飛躍へ！千代田の絆！”

(二) 開催日時

令和四年十月二十八日（金）

一〇時～一六時

(三) 会場

タワーホール船堀 大ホール

東京都江戸川区船堀四一一

(四) 担当部門別リーダー、サブリーダーの選任が終わり、それぞれの企画の策定が進められています。

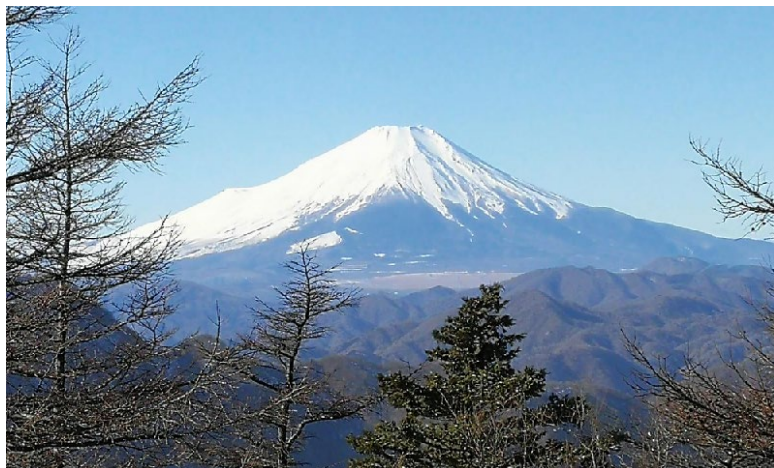
主な内容は、会員の出番を「二回は舞台へ」とし、独吟は来賓と会長のみとして、他は合吟と連吟とでプログラムを編成する。構成吟は大会の華

であり、剣舞チームを交えて舞台に色どりを添えるべく企画する等々、楽しい会となるよう進めていきたいと思っています。

現在はコロナウイルスの鎮静状態が続いていますが、海外では新型変異種が確認され、世界的にまた感染の拡大が予想されます。我国も第六波の到来に十分警戒が必要です。

そんな中での大会の準備や稽古は以前にも増して感染対策に注意を払い、三密の回避、マスクの着用、手洗いの徹底に努めコロナ禍での大会を収めたいと思います。

会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



令和三年度昇伝審査

師範及び奥伝以上 十一月 三日 三八名
千代田昇伝審査 十一月三〇日 一三〇名

（表参道十二名を含む）

■師範及び奥伝以上 本部審査

コロナ感染が今年も諸行事に多大な影響を及ぼすなか、奥伝以上の審査は例年通り文化の日に「かわさき保育会館」で開催され、関東地区の実技審査だけの参加となり、千代田は二四名が宗家の審査を受けました。

また師範・準師範試験は昨年に続き論文審査と会長の推薦という受験でした。

皆伝

中内 龍博（金 町）
粕川 龍紘（神 田）
小林 龍紫（志 茂）

三名

奥伝

武藤 光風（桜ヶ丘）
藤村 恵風（永山）
宮野 秀風（東陽町支部）
細川 修風（清水）
小蔦 正風（清水）
三好 彬風（中野）
櫻田 謙風（石神井）
二反田 幸風（生田）
坂下 光風（新宿 第二）

九名



会場風景

加藤 雅山（清 流）
伊藤 雄山（東陽町支部）
脇阪 緑山（東陽町支部）
中根 三山（神楽坂）
金城 明山（神楽坂）
堀田 宣山（表参道）
関根 雄山（生田）
小梶 湖山（新 陵）
柴田 豊山（新 陵）
田川 行山（みなとみらい）
中川 寿山（みなとみらい）
半村 晃山（新宿 支部）
林 實山（新宿 第三）
乙訓 稜山（新宿 第四）
十四名

皆伝合格者

皆伝を受審して

金町教場長 中内 龍博

この度皆伝を受審することとなった。「かわさき保育会館」で実施され、審査は宗家、伴奏宗嗣と豪華な布陣であった。

皆伝指定吟題二吟の内、当日は宗家指定の宮沢賢治作「雨ニモ負ケズ」であった。千代田の皆伝受審該当者は三名、審査室に三人で入室。吟詠は入会が新しい順で私はトップバッターであった。

いよいよ審査の開始。名前、本数を言い、宗嗣の素晴らしい伴奏により暗譜で吟じた。緊張は拭えず後半に一瞬絶句、タイミングよく宗嗣の助け舟もあり、気持ち良く最後まで吟じ終えることが出来た。宗嗣に感謝。審査後宗家より「立派な雨ニモ負ケズ」、「*油断大敵」と修得手帳に記して頂きました。

今後は会長はじめ諸先生方のご指導をいただき、九段、十段に向かって更なる吟力の向上を図っていききたい。

皆伝拝受

神田教場 粕川 龍紘

二十年前、神田教場に入会した当時は秋葉原の公民館を借りて吟の修得をしておりました。希望する日時、部屋を借りるのは大変で翌月分を毎月末、冬の寒い朝でも六時半頃から役所前で一番に

並び二時間程待つて予約したことを思い出します。

その後、新宿駅前の明治安田生命ビルで修得出来るようになり、誠に有難く安堵しておりましたが、建替え工事のため教場を本八幡に移転、通うのに往復五時間程かかり更にコロナ禍で自粛となり教室に参加できず困っておりましたが、平井教場長が懇切丁寧にご連絡下さり我が家で確り自習することが出来て本当に助かりました。

皆伝を戴き残りの詩吟人生、流統の教えを守り吟の素晴らしいさを伝えられるよう体を鍛え五感を研ぎ澄まし研鑽したいと思います。

艱難辛苦を背負う人生に挑戦したいと存じます。

皆伝審査を受審して

志茂教場長 小林 龍紫

岳精流に平成十七年入会してあつという間に「龍」の雅号を拝受して龍の存在は私に課せられた重圧感、責任感、ここ迄来たのだからやるしかないと私を強く促す。入会して教本に「雨ニモ負ケズ」馴染みの詩を見つけ感動したことがある。それが皆伝の課題吟でした。宗家の吟を何度も聴いて暗譜し、今迄になく努力した様に思います。皆伝に相応しい確りと吟じなければという思いでした。

これからも宗家のお言葉「指導は伝達伝導であり共に学ぶもの」と常に認識して教場の皆様に助けられ、行くのが楽しみと言われる教場でありた

いと望んでいます。鈴木会長、諸先生方のご指導に深く感謝して今後ともよろしくお願い申し上げます。

奥伝合格者

奥伝審査を受けて

桜ヶ丘教場 武藤 光風

この度、奥伝審査を受けまして「風」の雅号を頂くことになり、とても感慨深い思いです。習得手帳を開きましたら一行目が平成二十三年一月十日「春風」とあり、この年の四月に最初の昇伝審査と記してありました。

音楽的な資質が全くもってないのに、続けてこられたのは教場長をはじめ諸先生方に恵まれ、そしてご指導の賜物と感謝いたしております。また、教場の皆様との交流も欠かせないものです。

吟がまだまだ未熟なのは否めないもので、これからも先生方のご指導を頂きながら詩吟を学んでいきたいと思えます。やや不安な気持ちで臨んだ審査でしたが、部屋はとても清々しく宗嗣のコンダクターに導かれる様に吟じることが出来ました、お礼申し上げます。

奥伝を受審して

永山教場長 藤村 恵風

晴天に恵まれ、十一月三日奥伝審査を受審させて頂きました。当日の朝、長年指導を受けていた岩崎先生から激励のメールが届き、練習不足

の不安がなくなり、同期三人一組となり宗家の吟技審査を受けました。

ここ迄来るには色々なことがあり、何度かやめようかと思いましたが、吟友に一言「貴女は吟が好きですか？好きならば続けるべきです」と言われ、今日に至りました。吟友に感謝です。

コロナ禍中での教場造りに背中を押してくれたた笠教場長、受審当日会場に来てくれた太田ブロック長、千代田岳精会の吟友の皆様に感謝申し上げます。これからも吟の伝承、伝達に努めて参りますので、今後ともご指導の程宜しくお願いいたします。

奥伝審査に合格して

清水教場長 細川 修風

雅号「風」を拝命いたしましたのも先輩、諸先生方のご指導の賜物と感謝しております。

審査時の様子は、指定吟題AとBのうち、苦手なBを暗譜で吟詠しなさいと指示があり、私はAとBの詩文が混乱模様になり絶句しました。そこで詩文の短冊を見ながら吟詠することをお願いしたところ許可されました。最後まで吟詠することができました。俳句は私の好きな俳句でしたので、暗譜で吟詠することができました。

宗家の講評は『見てもよし、そらんじてもよし、自分の吟（節調よし）』と修得手帳に書いてくださいました。有難うございました。

奥伝合格して

中野副教場長 小蔦正風

文化の日、換気用に開けられた審査場の窓からは秋晴れのさわやかな風が流れていた。

宗家直々の審査を頂き、やや緊張感があったが絶句「山行」、俳句「荒海や…」を無事に吟じることが出来た。

教場に入会して十二年、努力した成果として奥伝（正風）を頂くことが出来、まずは中野教場のお二人の先輩先生にお礼と感謝の報告を致します。

昨年末に逝去された故村上精道先生の「吟とは、吟意とは、伴奏」など初歩からの懇切丁寧なご指導、現在も熱くご指導頂いている徳本顧問先生の「吟詠とは、吟声とは、姿勢」など理論的で分りやすいご指導のおかげと思えます。

まだまだ道半ばを実感しています。吟詠後に宗家から修得手帳に頂いた「吟に味わいあり、励むべし、楽しむべし」が明日からの我が吟の道として、千代田、教場の先輩、吟友の方々のご支援も頂き健康に留意し吟を楽しみ精進していきます。

「風」号拝受に思う

中野教場長 三好 彬風

入会当初、磯田先生から「詩吟が一人前になるには十年かかる」と伺った。其の後の温習会や各種発表会で拝聴させて頂くと、風号以上の方は総じて上手いと感じる。一方、受審条件から換算すると、風号を受審出来る迄には、略十年を要する。

成程、先生のご指摘通りの様だと感じていた。

それ故、奥伝に達することが一つの目標になっていた。入会以来十年以上に亘る諸先生の忍耐強く温かいご指導のお陰で、今回漸く受審機会を頂けた訳だ。「言葉之急ぎ過ぎるな」とのご指導を頂いたが、何とか認めて下さった様だ。重畳。

省みると、一人前には程遠い現況ではあるが、多少の上達を目指し乍ら、今後共詩吟を楽しんで行けたらと思う。

奥伝を受審して

石神井教場長 櫻田 謙風

平成二十二年、千代田岳精会清水中野教場に入会して十二年が経ち、このたび奥伝を受審させて頂きました。お陰様で「風」の雅号を頂き、これまでご指導いただいた先生方のお蔭と心より感謝申し上げます。

現在小なりといえども教場を任されております。「指導は伝導であり、共に学ぶ姿勢にあり」を肝に銘じ「教えることは、学ぶことである」をモットーにして、礼節を重んじ、生徒一人ひとりに寄り添い、明るく楽しい教場を目指して進みたいと思っております。

幸い歩行に問題がないので、健康の許す限り教場に通い教場の維持、発展、後継者の育成に努めたいと念願しております。

奥伝を受審して

生田副教場長 二反田幸風

岳精流日本吟院入会、早や十一年。この度奥伝の修業年数を得て受審することになりました。入会后本部、千代田岳精会の先生方、又諸先輩方の指導を受け乍ら、よくぞここまで詩吟を続けて来たかと言うのが今の実感だと思っています。

これ迄幾つかの役職を踏み、今回奥伝の雅号を頂く以上、これからは自身を磨く努力は勿論ですが、指導者としての責任ある立場であることを理解しつつ教場運営に努めて参りたいと思います。

まだまだ未熟な私ですが、岳精会先生方のご指導の下、雅号に恥じぬよう努力したいと思っています。今後共ご指導ご鞭撻を宜しくお願いします。

奥伝を拝受して

新宿ブロック長 坂下 光風

大学の同期生であり、囲碁の仲間でもあった故加納隆君から詩吟を誘われたのは、つい最近のことのように思われる。「今度の昇伝審査で泉の雅号が貰える」と嬉しそうに話していたのが忘れられない。当時の新宿教場長は故酒井帆風先生（当時）で、その熱心な教場風景に感動して入会したのであるが、まさかここまで続くとは思っていません。彼が急逝され、加納隆山先生も亡くなって、小生の名簿の順位も上昇し、ブロック内でも責任がある立場になってしまった。

月日の経つのも早いもので、もう奥伝を拝受す

る時を迎えてしまいました。吟詠の力はまだ奥伝にはほど遠い気がしますが、奥伝を拝受した以上はその伝位に恥じないよう切磋琢磨していきたいと思います。

準師範合格者

中伝準師範試験に思う

清流副教場長 加藤 雅山

吟を始めて八年、諸先生・先輩のご指導でここまできて中伝準師範資格を頂くようになり感謝です。

思えば吟に対して周り身内に吟詠者がいた訳でもなく、関心興味を特別持っていた訳でもなかった私自身でしたが、縁あり流統の授業を見学してその魅力に取りつかれ、以後吟の楽しさと同時に上達せんがための苦しみを味わいながらも勉強している昨今です。

私にとって今では吟は趣味以上のもので充実した生活を送る上で日々切り離せない要となっております。

この度、師範として指導をすることを流統から正式に認められた準師範資格を得ての今後の抱負ですが、コロナ禍で対面授業が出来ない状況を打破しようと令和二年夏前から有志先輩とZoomを利用した会横断的な（一般）と（初級Ⅱ雅号取得前の方が対象）のオンライン授業を立ち上げました。研修部からも認められ現在も授業継続しています。月二回の〈初級〉の講師を師範資格ありの先輩が交互に行っていますが、準師範資格

を得た私も今後この授業の講師をするのが楽しみです。また教場での教場長の指導の補佐を今以上にやらねばならぬと心している次第です。

まだまだ勉強途上の未熟な私ですので今後とも諸先生・先輩方のご指導のほど宜しくお願いします。

昇任審査が終わって

調布教場 中根 三山

準師範の許証を賜り、光栄に思っております。私は平成二十六年に調布教場に入れて頂きました。姉に誘われて教室に通い、当時はたくさん会員さんがいて盛り上がりを感じておりました。また、菊地龍駿副会長も教えて下さったりで、楽しい時間を過ごすことができましたが、菊地先生が亡くなられて寂しくなりました。

私は先生から頂いたバッジを形見と思つて使わせていただいております、お守りです。吟の技術的なことだけではなく、舞台での態度とか、色々なことを教えて下さいました。人間的に暖かく、信頼のおける菊地先生のような指導者になれたら素晴らしいと思います。岳精会には幅広い先生が沢山いらっしゃいますので学ばせて頂けたら有難いと思っております。

練習日が待ち遠しくなる教場

表参道教場世話人 堀田 宣山

この度、中伝準師範の合格通知を受け取り、大

変喜んでおります。宗家はじめ関係の先生方のご判断に感謝申し上げます。

私は「心構え」として、会員と心をひとつにして吟の楽しさを感じてもらえるように心がけていきます。岳精流の基本である吟譜、音位、アクセント記号をどの様に伝えてゆけば良いのか？指導する立場で考えてまいります。母音の大切さ、母音の口の形、基本である腹式呼吸の徹底です。とにかく、楽しく吟ずることを基本に、練習日が待ち遠しくなるように教場の雰囲気作りに努めます。

これからは、教える困難に挑戦です。諸先輩のアドバイス宜しくお願い申し上げます。

準師範取得に思う

生田副教場長 関根 雄山

この度、準師範に合格できたことは偏に鈴木会長をはじめ諸先輩皆様にご指導を賜ったお陰と感謝しております。

吟道は日本伝統文化であり世代を超えて受け継がなければならぬと考えています。今後教えられる立場から教える立場になる自覚を持ち、今以上の勉強と練習を行い、吟友と共に学び、厳しい中にも何でも言える和気あいあいとした教場を目指したいと思っております。技術面では宗家、鈴木会長、教場長から学んだ流統独自の節調等を次の者に伝えたいと思っております。

高齢化、コロナ等で会員が減少傾向にあるので吟友増加にも努めたいと思っております。資格に恥

じないよう精進しますので、今後とも会長、諸先輩方のご指導、ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

準師範の資格を得て

新陵副教場長 小梶 湖山

小さな宴席から始まった私の詩吟ライフもはや九年、これは会社人生の1—4にも相当する。カラオケで唸るしか能の無かった男が、よくぞ斯様に長く続けてこられたと感心もするが、これも偏に諸先輩の導きのお蔭と唯々感謝あるのみです。

この二年に及ぶコロナ禍で自分の詩吟に対する取組みにも変化が出てきました。先ずはオンライン移行による学習の効率化と、練習方法の改善（伴奏器の活用とビデオ復習）があり、二点目としては教場間の壁が低くなり、吟友の輪が拡大したことで、新たな自己啓発の意欲が湧いてきたことでしょうか。

今回の準師範を我が詩吟ライフの一里塚と自認し、引き続き研鑽を積みながら「吟友の輪」を更に楽しく大きなものに育てて行ければと願っています。

準師範になって

みなとみらい教場長 田川 行山

後期高齢者になってから千代田岳精会に入会し、最高齢者だったためか図らずもその五年後に

新設されたみなとみらい教場（当初は分室）の責任者となりました。

それからの四年間は今日に到るまで教場の運営が中心になってしまつて、会員の皆さまへの指導は鈴木会長にお任せして参りました。鈴木会長のご都合の悪い日は萩原副会長をはじめ幹部の皆様にご指導をお願いして参りました。

準師範になるということは、そろそろ自分で会員の皆様に直接指導する力をつける準備に入る段階が来たことになると思います。今後は鈴木先生をはじめ諸先輩の先生方の指導のされ方を真剣に学び、指導できる力をつけて参りたいと思います。

中伝準師範昇伝審査に思う

新宿支部教場 半村 晃山

私は昇伝審査に臨む度に思うことがある。私の吟歴は十年以上（休会を含む）を費やしたが吟力は向上せず（詠い込みは十分にしている）なぜ、郷土の強いアクセントを引きずり、イ・エの発声が今もって駄目、更に発声する基本「口の開き方・腹式呼吸等」が出来ない。繰返し素読する大切さも分からず、これで昇伝審査を受けてよいのかと常に悩んでいます。

名誉ある「中伝準師範」の認許は有難く頂戴しますが、肩書は脇に置きこれからも詩吟に真剣に向き合つて練習し、先生や吟友から「吟力を付けたね」言われるよう頑張りたい。

中伝準師範を受けて

新宿第三教場 林 實山

時の経つのは早いもので、同級生に誘われて新宿教場に入会して早くも十年になろうとしています。

詩吟とは全く縁も経験もなかった自分がここまで続けて来られたのは千代田岳精会と新宿支部教場という組織が出来上がっていて、初心者の方の私達に親切（そうに）且つ巧妙に指導していただいたからと思っています。入会間もなくのある日、お土産だと言つて紙包みを頂きました。これについては誰それから別途説明があると言われ、自宅に帰つて開梱してみると未だ触ったことさえないコンダクターと請求書があり、これを買つて勉強しなさいと分かりました。

以後月一のペースで「ラファアラファアラファ」（吟の極致は…）等のご指導を根気よく教えて頂き、今となつては大変貴重なレッスンを頂けたと深く感謝しています。

今後とも皆様方のご指導をいただき努力を重ねていき、併せて準師範として当会に貢献できるように頑張りたい所存ですので宜しく願ひします。



■昇段審査最高位 「十段」 合格者

十段

徳本 龍治（表 参 道）

池田 龍康（神 田）

植村 龍翔（鎌 ケ 谷）

八田 龍仁（丸の内支部）

十段の受審に思う

副会長 徳本 龍治

私は現役時代に何か趣味を持ちたいと考え、三十五歳頃会社の謡曲部に入部して十年、その後小唄を十五年嗜み、定年近くなつた平成九年九月、先輩に誘われ千代田岳精会にお世話になり二十四年経ちました。そしてこの度、審査による資格区分最高位十段を受審しました。この十段の資格基準には指導力、統率性の涵養が高度に求められており身が引き締まる思いです。

私は現在、五教場で「指導は伝導伝達であり、共に学ぶにあり」との宗家のお考えを基本に、皆さんと吟の研鑽に励んでいます。なぜ趣味の詩吟がこんなに長く続いているのかを十段受審を契機に考えてみました。

私は座右の銘として「温故知新」という言葉が好きです。「古きをたずねて新しきを知る」とも言います。これは論語の「温故而知新、可以為師矣」から来ています。意味は「古い事柄も新しい物事も知つていて初めて人の師となるにふさわしい」ということです。昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得ることの大切さを説いています。

岳精会会詩のフレーズを見て驚きました、即ち「自ら識る古道顔色を照らすを」賢聖英傑双眼の前」等の言葉です。何千年と続く人間社会の変遷の姿を映す賢聖英傑の書物は、まさに温故知新の宝庫です。この宝物のお陰で私は詩吟を二十四年も楽しむことができ、今回十段受審に繋がったと

思います。

私は今年八十六歳を迎えますが、ご指導下さった総本部及び千代田の諸先生、吟友の皆様への感謝を忘れず、今後とも心の赴くままに吟を楽しみ、微力ですが会の発展に寄与できればと念じています。

十段審査を終えて

中央ブロック長 池田 龍康

秋の好天に恵まれた十一月三日、十段を受審させて頂きました。平成七年に入会し二十六年経ちました。ここまで頑張つてこられたなあと思うばかりです。何より主人が元氣、素晴らしい吟友に恵まれました。十段を受けるにあたり、毎朝早起きいたし、近くの荒川の土手で、滔々と流れる川に向かって練習をいたしました。

この度は宗家直々の審査、胸がドキドキ致しました。宗家より直接修得手帳を渡され「良く吟じた」と励ましのお言葉を頂きました。無事審査が終わり、十段を受けた千代田の仲間と一緒に帰路につきました。千代田の会長並びに皆様のお陰、本当に有難うございました。

来年は千代田の三十五周年記念大会、力を合わせて立派な大会になるよう頑張ります。

これからも健康に気を付けて、一步一步良き吟友と共に吟を楽しみたいと思います。

詩吟の道

鎌ヶ谷教場長 植村 龍翔

詩吟を始めて二十三年、最高段位十段を受審、宗家先生直々の審査です。吟題は「山行」杜牧作。緊張のあまり絶句、これでは指導者として十段の資格なしの心境。宗家の講評は「無限に道を歩む」でした。

平成十年東陽町教場に入会。磯田精信先生、岩崎精慶先生の指導下で七年、最初の審査は「日本刀を詠ず」徳川光圀作。全国吟詠合吟コンクール武道館大会は七回出場。平成二十二年本部男子で「乃木將軍を挽す」杉浦重剛作で二位入賞が最高です。

平成十七年地元鎌ヶ谷に教場を開設、平成二十六年十周年大会を開く。教場の道野辺コミュニティセンターのコミセンフェア、老人ホーム慰問訪問等行事に参加していますが、今はコロナ禍で行事休止中です。月三回の教室を少人数の利点を生かし頑張っています。

南去北来人自老

丸の内支部教場 八田 龍仁

入会して十五回目の審査が最後の十段。十一月三日、一度も欠けず続けられた健康に感謝。初心に帰ろうと最初に受けた吟題「漢江」を選んだ。転句の「南去北来人自老」まさに今の私自身の姿だけにその想いを心行くまで宗家の前で吟じた。

四年前の皆伝審査は七名であった吟友が総伝昇進、物故者、その他で今回は四人。終わってお互いを祝って乾杯したビールは暫らく自粛した

後だけに最高に美味しかった。

ご縁あり、人に自慢できる趣味と仲間を得て心身ともに充実した老後を得た。これからの人生「欲窮千里目 更上一層楼」の心境で詩吟を楽しみたい。



十段の諸先生

千代田岳精会 昇伝審査

延期が続いた春の千代田昇伝審査は十一月三日、新宿文化センターに横山精真宗家、家吉精雄幹事長、小林精昶府中支部長を審査員にお迎えして開催、一三〇人が受審しました。二年振りの全体集合の審査となり、一人ひとりに丁寧な指導がありました。講評では、教室が開催出来ず吟技修得の時間不足など厳しい環境下での挑戦に励ましを込めて評価を頂きました。

中伝

前田 春山（丸の内支部）
與座 美山（神楽坂）
金井 俊山（中野）



受審の様子

飯島 飯山(生 田)
青木 憲山(新 陵)
加藤 圭山(みなとみらい)
滋野 彦山(みなとみらい)
佐野 照山(新宿 第四)
八名
荒木 秀泉(東陽町支部)
平居 俊泉(東陽町支部)
山根 敏泉(清 水)
高岡 幸泉(ハザマ支部)
安田 恵泉(みなとみらい)
宮本 晃泉(みなとみらい)
西多 英泉(みなとみらい)
園山 千泉(みなとみらい)
檜村 悠泉(みなとみらい)
小野 栄泉(新宿 第四)
十名

東京都吟詠コンクール大会

新型コロナウイルス感染で全国吟詠コンクール大会が中止となり、これに代わる独自の吟詠コンクールが企画され昨年の港区、今年の品川区上位入賞者を対象に開催された。二十名の会員が出場したが、残念なことにコロナ第五波蔓延中で出場できない会員も続出した。

出場の方々は久しぶりに心行くまで吟詠を堪能されたと思います。

次の方が入賞されました。

一般一部 六位 石井 寅山(新 宿)
一般二部 四位 中野 陽風(新 宿)
一般三部 三位 片山 寿風(東陽町支部)
四位 犬飼 勇風(ハザマ支部)
十位 能島 浄泉(新 陵)
十一位 西川 琉泉(新 陵)

年男・年女

今年の干支は壬寅(みずのえ・とら)です。



吟に感謝

神田教場 宮川 丞風

今年、八回目の年男を迎え、気が付けば神田教場で最高齢になっていました。美濃岳精会の則武

精秀さんに紹介されて神田教場に入会してから十四年、詩吟に出会えて心底幸運だったと思っています。もし詩吟に出会えなければ寂しい老後生活を送っていたらと思うと思います。

その上、今年皆伝の審査を受けられるようになるとは思っていませんでした。とても味わいのある吟を詠ずることが出来るように努力し、吟を楽しむながら残り少ない人生を過ごしたいと思っています。

令和四年壬寅に想う

我孫子教場長 石田 匠風

令和四年の四月にて、八十四歳となる。家系で見ると長すぎる寿命である。吟道で十六年となり、長命なのは吟による活力増強で元氣となり吟友との交流、飲食会話、この大切な時間があってこそ生き甲斐あり！コロナ感染で二ヶ年の空きが出来て残念である。これからどうする。生きていてよかったと思えるようなことを感ずる思い出を急いで作る。吟友の皆さんにお願いして、私のおまけ人生にお付き合いで吟共々ご指導頂きたく、詩吟に近道はありませんと言いますが、そこを曲げて詩吟も、日常生活も、太く短く、そして長く、お付き合いの程、よろしくお願い申し上げます。そして、令和四年から二ヶ年を取り返すべく、吟道に励みたいと思います。

年男（壬寅）を迎えて

清水教場長 細川 修風

八十路の思い出は大阪に生まれ、三歳の時、日本はアメリカと戦争をし、一年生の時、集団学童疎開に行き、七歳の時、日本は戦争に負けました。

二十三歳の時、大阪の学校を卒業して東京の建設会社に就職しました。東京オリンピック、大阪万博、奈良東大寺の工事などに従事しました。

七十一歳の時、妻が他界し、翌年、元会社の上司に誘われて岳精流に入会しました。それから十一年余、先生方の指導のお蔭で吟詠も上達したでしょうか。

現在は、清水教場長の役割、逗葉教場・石神井教場へ吟詠支援、また俳句研修会に参加。町会の役員そして、持病の通院治療、毎朝のテレビ体操、炊事家事と忙しい毎日です。

これからも楽しく笑顔で勤めます。

年男 持病を友に 吟じおり

詩吟に出会えて

ハザマ支部 神田 恒山

四十三年続いた商売をやめ少しはのんびりしたいと思ったのですが、時間が気になり落ち着かないのです。長年の習慣が変わるまで一年もかかりました。同郷の人たちの集まりである東京会も楽しみました。そんな時、友人に「詩吟見学会があるのだから来てみないか」と誘われて神楽坂の教室へ参加しました。漢詩には興味がありましたので

わくわくです。和やかで自由に吟を楽しんでいるようでした。二回目も参加致しすぐ感動したのです。後日友人から電話があり吟の話、会の話等聞いて思い切って入会しますと答えていました。

平成二十五年一月、七十五歳、私の第二の人生を楽しみたいと思います。ハザマ教場で友人は教場長でした。男性が多く女性は五人でした。教室は和やかに進行しています。初日の吟は「海南行」の勉強です。素読は出来ても吟詠なんて声も出ません。緊張が不安に変わり、これから続けられるのか悩んでしまいました。でも教場へは行きたいし欠席はしたくないので教室で練習した吟は、家で漢字の勉強と思って素読し書き写し、音楽の勉強と思いコンダクター用の譜面で音程を暗記したりしました。吟の書き写しは今でも続けています。教場の皆様方に励まされ、食事にも毎回参加して楽しむようになりました。

老後の習い事で始めた詩吟が八十路になってこんな楽しめるなんて、誘って下さった教場長と教場の仲間の皆さんに感謝致します。寅年の今年も健康で詩吟、俳句（句作）にと励み、来年の入会十年を目指して行きたいと思っています。

年男のつぶやき

みなとみらい教場長 田川 行山

後期高齢者になってから詩吟を始めて、よかつたと思えることは、まず多くの良き友と出会えたことです。また和漢の古典に接して、新たな領域に触れることができたことでしょうか。

残念なことは、一向に吟力が向上しないことで毎回恥ずかしい思いをしています。随分前のことですが、海外赴任が決まった時、当時の上司から「英語での会話力は諦める。お前の年では覚えただけ忘れるものだ」言われたことを思い出します。それから三十年以上経っておりま。吟力が向上しないのは年のせいにして、教場の皆様か吟を楽しめるように努めることに重点を置いて、寅年を乗り切って行こうかなと思っています。

我が願い

生田教場 飯島 飯山

「人生一〇〇年」の時代と言われるが私の人生は少なくなっている。一年があつと言う間に過ぎてしまい「気力」「体力」「記憶力」が日増しに落ちてきた。でも吟が気持ち奮い立たせてくれる。晩年になって出会い、下手なりに大きな声で頑張っている。常に同じ注意をされて自分では「よし頑張るぞ」と思いながら又同じことの繰り返しが続いている。詩吟は全く知らない世界でした。上達しないのは歳のせいなどと言ってごまかしているが、努力が足りないのは百も承知。自分に頑張れ！ガンバレ！と言い聞かせ、又歳を気にするな！とも。真善美を大切に今日も吟にどっぷり浸かって幸せ。寅年も何とか病気をせずに通したい。指導して下さる先生方頑張ります。よろしくお願いします。

「トラ」にまつわるお話

新宿第三教場 湯田 直泉

十二月八日、私の誕生日だ。八十年前のこの日は、昭和日本の最大の失敗太平洋戦争の開戦日である。

昭和十六年十二月八日早朝「トラトラトラ」と日本海軍のハワイ、オアフ島の真珠湾アメリカ海軍基地の奇襲攻撃が開始されることを伝えた暗号電信だ。寅年でもないのに何故トラという言葉を使用したのか、トラがたまたま虎と寅と同音であったため様々な縁起をかついだものだと俗説があるが根拠は不明だ。

太平洋戦争史では、「トラトラトラ」は、第一次攻撃の指揮官がハワイ上空から空母「赤城」に打電したことになっている。一般的には「我レ奇襲二成功セリ」の暗号電信と思われるが「突入セヨ雷撃機」言われている。「トラ」のトは「突入セヨ」ラは「雷撃機」を意味する。

日本はこの奇襲攻撃により緒戦は快進撃を見せたもののアメリカは「リメンバー・パールハーバー」を合言葉に反攻に転じ、最終的には、広島・長崎への原爆投下、ソ連の参戦などにより「ポツダム宣言」を受諾し、三年余の戦争は終結した。当時、私は国民学校一年の夏休み期間中であつた。今、地球上では国と国、人と人の争いの火種が燦々している。また正体不明の新型コロナウィルスとの戦いの真つ最中にある。これらが早期に終息し、平穏な日々を過ごせることを祈るのみである。

五黄寅七十二歳

東陽町支部副教場長 脇阪 緑山

現役時代は朝から晩まで土曜日曜も働き詰めの会社人間だった私は、何時までも若いつもりでいましたがついに七十二歳の年男となりました。

振り返れば鈴木会長、宮野先生から「詩吟をやらなひか？」とお声がけ戴いたのが二〇一二年七月の大学同窓会の集まりの場でした。これが吟縁と言われるものでしょう。千代田入会十年目を迎えた今、私は岳精会で緑山の雅号を戴き詩吟がすっかり生活の一部として定着し、楽しみながら千代田岳精会の素晴らしい諸先輩や吟友の皆様と親しく交流出来ることを深く感謝しております。

コロナ禍は、詩吟の楽しみ方にも大きな影響を及ぼしていますが、パソコンやスマートフォンの普及のお陰でホームページやズームを活用してのリモート教場がスタートしたことは私にとって有難いことでした。人生の大きな節目を迎えて、改めてリアル教場とリモート教場の上手な組み合わせで、これからは更に詩吟を深く学び、自己研鑽に励みたいと考えております。

カヌーのお話

ハザマ支部副教場長 小浦場 伯山

この話をする皆さんはいつもびっくりされますが、私は学生時代の四年間、大学の講義に出席するよりも、琵琶湖畔でカヌーを漕ぐことに精力を注いでいました。

リオデジャネイロオリンピックで羽根田選手が日本人で初めてメダルをとり、多少このスポーツが知られるようになりましたが、当時は更にマインナーな競技でインカレや全日本の大会でも予選無しで誰でも参加出来ました。

昨年の東京オリンピックでもカヌーの入場券を二枚入手していましたが、無観客レースとなり観戦することができず残念な思いを致しました。当時のカヌー仲間とは今でも時々連絡を取り合っていますし、コロナ前には飲み会もよく行っていました。詩吟の会員の方と同様生涯を通して大事にしていきたい仲間です。

「五黄の寅」

丸の内支部教場 座間 萌泉

私が生まれた昭和二十五年は、「五黄の寅」と呼ばれ九星の「五黄土星」と十二支の「寅年」が重なる年のことです。五黄の寅は三十六年に一度巡ってくるので最強の運勢を持つていると言われていますが、女性にとってはこの限りではなく、夫の寿命を縮めたり、夫を食い殺すといわれた丙午（ひのえうま）生まれの女性同様、忌むべき存在だったようです。勿論迷信であるのは言うまでもありません。

さて、詩吟に出会って早や六年、昨年は雅号も頂きました。今日まで続けてこられたのも偏に先生はじめ諸先輩のご指導の賜物と心から感謝いたします。

今年は寅のパワーにあやかり、力強い吟詠が出

来るよう、一層精進してまいる所存です。

千代の春 寿ぐ吟の調べかな 萌泉

怪我をして思うこと

鎌ヶ谷教場 三代川 栄子

昨年十一月にバス会社のウォーキングツアーに参加し、日光の二荒山神社から滝尾の路と憾満が淵をウォーキングしてきました。滝尾の路は紅葉が真っ盛りで赤、オレンジ、黄色の葉が陽の光に照らされて輝いていました。また杉が鬱蒼と繁る林では岩や杉の根元が苔むし、神秘的な雰囲気を感じていました。憾満が淵では人々の願いを託した沢山の地蔵様が並び、反対側には大谷川の急流が岩にぶつかり激しく水飛沫をあげている景色に心洗われるようでした。

コロナ感染拡大の時期には詩吟も休講になりましたがウォーキングツアーも中止、太鼓やダンスなどの習い事も休講になりました。それでも私は手芸やガーデニングも好きなので時間を持て余すことは無かったのですが、没頭するあまり運動をしなかったで膝を痛めてしまいました。折角のダンスのレッスンが再開した時には暫らく休むことになってしまいました。

これからも怪我や病気をせずに詩吟や他の趣味を楽しむためにもウォーキングを頑張ろうと思います。



『新会員紹介』

◇金町教場

小野 弘子さん（九月入会）

長く続けられる趣味はないかと思っていたところ、広報を見たところ、金町教場を見学に来られました。コロナ禍で少し恐いけれど、大きな声を出した後の清々しさと健康に良いと、九月一日に入会されました。吟は初めてとのことですが、音感よく節調もバッチリ、山の声がとても綺麗です。これからが楽しみです。

◇表参道教場

笹川 正平氏（二月入会）

祖母は吟詠静風流笹川静江でございますが、私は全く素人でございます。皆様、厚くご指導下さいませ。

柳井 えりさん（二月入会）

表参道教場に参加させていただいております。詩吟の世界を知って、楽しんでしっかり学んで頑張ります。

『令和三年入会の新会員（七名）』

二月 笹川 正平氏（表参道）

五月 柳井 えりさん（表参道）

六月 安藤 直道氏（表参道）

九月 井上 富美子さん（用賀）

十月 小野 弘子さん（金町）

十一月 松浦 悠子さん（調布）

十二月 金指 久美子さん（金町）

自粛続きの環境でご入会有難う。大歓迎いたします。ご健吟を期待しています。

編集後記

昨年、世界に蔓延し日本も第五次緊急事態宣言を発令して国民こぞで取り組み始めた新型コロナウイルス、三密を避ける国民一人一人の自助しか予防策がない状態からワクチン接種の浸透の効果で、感染者数の急減状態となり、活動制限が緩和されているのはよい傾向だが、感染力が強いと言われる変異種オミクロン株が世界中で拡大傾向で油断はできない。

千代田の各教場もやっと再開が進んでおり、十分の配慮をしながら昔の姿に戻ることが期待したい。

一年延期された「千代田創立三十五周年」記念吟道大会の準備が進められており、コロナに負けず開催できる日を願うや切の思いです。

吟じたくとも、声を出す場を奪われている人が多い中、我々岳精流・千代田は地道な努力を重ねてきました。近い将来平常に復し思い切り吟ずる姿を期待できる気がします。

この二年間、会員相互の交流、情報交換の数少ない手段となった広報紙「ちよだ」も状況の変化に合わせて形にしたいと考えます。

「ちよだ」の記録を残す役割はホームページに全号載っているので逸散の心配は無くなりました。

（八田 龍仁）